

廣川研究助成事業の概要とその成果について

中尾 信典¹

平成 23 (2011) 年 1 月にご逝去された元地質調査所職員・廣川 治氏のご遺族(ご令嬢)である廣川はるみ様から、地質調査総合センター (GSJ) に対して 1000 万円もの高額のご寄付のお申し出があり、GSJ は平成 23 (2011) 年 9 月に深く謝意をお伝えし、これを受領いたしました。廣川 治氏は、地質調査所で長年にわたって地質学の研究と調査に貢献された方で、ご経歴・ご功績については、GSJ 地質ニュースに「廣川 治さんの生涯と業績」と題して紹介されています(山田, 2012)。また、本寄付金の経緯も GSJ 地質ニュース(佃, 2012)で報告されています。廣川はるみ様からの寄付金申込書には、『旧地質調査所 OB である廣川 治の精神を活かすため、委員会を設置して、用途を特定して適切に運用すること。活動報告をホームページ等で公表すること。』と記されるとともに、『旧地質調査所設立の年を 1 年目とすると今年は 130 年目となる。この長い歴史を大切にしながら新しい時代の GSJ としてあるべき姿、為すべきことを考え、国の内外から信頼される研究機関となってほしい。人間として正しい行いをし、なすべきことに対しては真摯な姿勢で臨むという廣川 治の精神を引き継いでいってほしい。すでに実践されているのであれば今後も続けてほしい。若手研究者の発言・発表の場や機会を多く設けてほしい。』と GSJ への期待が述べられていました(佃, 2012)。

このご遺志に沿って、GSJ では当該寄付金を管理・運用する「廣川寄付金運用委員会」を平成 24 (2012) 年に設置し、GSJ に所属する若手研究者の育成に資する研究助成を目的とした「廣川研究助成事業」を開始しました。若手研究者を海外に短期派遣することで国際的に活躍できる人材を育成するという事業です。具体的には、毎年、調査・研究、学会発表・情報収集、大学・研究機関等との共同研究やその事前打ち合わせ等に係る外国旅費等を対象として、GSJ 常勤研究職員(原則として応募当時 40 歳未満)からの提案を公募し、運用委員会が厳正に審査し海外派遣を決定するというものです。当初は 10 年程度の期間で運用することとし、毎年、総額 100 万円を目安として 2～3 名程度の若手研究者を海外に派遣してきました。平成 27 (2015) 年度

分まで、派遣された若手研究者の報告という形で活動内容を GSJ 地質ニュースに掲載するとともに、助成事業報告を廣川はるみ様にご報告してきました。

平成 29 (2017) 年には、廣川はるみ様ご逝去の報を受けました。ここに、はるみ様のご冥福を心よりお祈りする次第です。なお、廣川はるみ様のご遺志により GSJ は再度 300 万円ものご寄付を頂きました。廣川 治様、廣川はるみ様のご遺志をお受けし、深甚な感謝の念に堪えません。GSJ では、これらのご寄付を合わせて計画期間を 13 年に延長して廣川研究助成事業の運用を図りました。活動内容は平成 28 年 (2016) 年度以降、令和 5 年度分まで GSJ 地質ニュースに掲載しています。途中コロナ禍による中断などもありましたが、令和 6 (2024) 年度に滞りなく事業を完了いたしました。本事業により海外派遣された若手研究者は 35 名に及びます。それらの概要を第 1 表に示します。このうち現時点で、11 名の若手研究者が、助成事業での短期派遣をきっかけにして海外の研究機関や大学との人的ネットワークを構築し、半年以上の長期在外研究に結び付けています。なお、事業最終年度である令和 6 (2024) 年度に本事業により海外派遣された研究者の活動詳細は、この後に続く特集記事をご覧くださいと幸いです。

廣川はるみ様からご寄付を平成 23 (2011) 年にお受けする際、上述のように、GSJ への熱い思いと期待を頂きました。廣川研究助成事業完了の報告にあたり、我々はその期待に応えられているか、常に自問自答しながら、一層の努力をしていく必要があると考えております。

廣川 治様、廣川はるみ様のご遺志並びにご厚情に、心より感謝申し上げます。

文 献

- 佃 栄吉 (2012) 廣川 治氏ご遺族からの寄付金について。GSJ 地質ニュース, 1, 18.
- 山田直利 (2012) 廣川 治さんの生涯と業績。GSJ 地質ニュース, 1, 19-21.

¹ 産総研 執行役員・地質調査総合センター長

キーワード：廣川 治、廣川はるみ、寄付金、廣川研究助成事業、若手研究者、海外派遣

第 1 表 廣川研究助成事業の実績.

	西暦年度	派遣者氏名	派遣時の所属	派遣先機関名	派遣先国名	派遣目的	GSJ地質ニュース掲載号
1	2012	野田 篤	地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ	アメリカ地質学会年会	アメリカ	断層活動に伴う堆積盆の形成と埋積過程に関する国際共同研究に向けた情報収集と事前協議	Vol.2 No.4 (2013年4月)
2	2012	吉岡 真弓	地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ	チューリヒ工科大学	スイス	スイスにおける地中熱利用技術に関する動向調査	Vol.2 No.9 (2013年9月)
3	2013	北島 弘子	活断層・地震研究センター 地震素過程研究チーム	メリーランド大学	アメリカ	比抵抗測定装置開発のための情報収集－南海トラフ玄武岩および赤色粘土の比抵抗測定－	Vol.3 No.9 (2014年9月)
4	2013	後藤 孝介	地質情報研究部門 マグマ熱水鉱床研究グループ	アリゾナ州立大学, AGU	アメリカ	ガーナ・エンスタマンガン鉱床の成因解明に向けた研究打合せ	Vol.3 No.9 (2014年9月)
5	2014	眞弓 大介	地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループ	Goldschmidt Conference, カルガリー大学	アメリカ, カナダ	油層微生物の原油分解メカニズムの解明に関する国際共同研究に向けた情報収集と事前協議	Vol.4 No.8 (2015年8月)
6	2014	風早 竜之介	地質情報研究部門 マグマ活動研究グループ	IAVCEIガスワークショップ	チリ	火山噴煙観測研究の動向調査－チリの火山・地熱地帯における国際的な火山ガス合同観測－	Vol.4 No.8 (2015年8月)
7	2015	朝比奈 大輔	活断層・火山研究部門 水文地質研究グループ	US Rock Mechanics /Geomechanics Symposium	アメリカ	放射性廃棄物地層処分技術・研究の動向調査と国際共同研究に向けた情報収集	Vol.5 No.9 (2016年9月)
8	2015	森本 和也	地圏資源環境研究部門 地質変動研究グループ	フィリピン大学, 九州大学, 金沢大学	フィリピン, 日本	機能的粘土鉱物の成因調査と利用に関する国際共同研究に向けた事前協議	Vol.5 No.9 (2016年9月)
9	2015	山崎 誠子	活断層・火山研究部門 火山活動研究グループ	フィレンツェ大学	イタリア	若い火山岩試料に対するK-Ar年代法の高度化に向けた国際共同研究－打合せと試験的試料採取	Vol.5 No.9 (2016年9月)
10	2016	大坪 誠	活断層・火山研究部門 地質変動研究グループ	アメリカ地質調査所	アメリカ	深部地質環境の長期安定性評価のための断層活動と水理地質特性との相互作用の解明に向けた国際共同研究打ち合わせ	Vol.6 No.9 (2017年9月)
11	2016	小野 昌彦	地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ	AGU, USGS, スクリップス海洋研究所	アメリカ	沿岸域における地下水情報の整備, 地下水環境の評価に係る調査・研究手法の動向調査および情報収集	Vol.6 No.9 (2017年9月)
12	2016	最首 花恵	再生可能エネルギー研究センター 地熱チーム	コロラド鉱山大学, オレゴン大学	アメリカ	持続的な地熱資源利用のための双方向システム; 地化学的地熱資源評価手法と住民参加型地熱調査活動の可能性を探る	Vol.6 No.9 (2017年9月)
13	2016	シュレスタ・ガウラブ	再生可能エネルギー研究センター 地熱チーム	アジア地熱シンポジウム	タイ	タイ・ベトナムにおける地中熱ポテンシャル評価事前調査	Vol.6 No.9 (2017年9月)
14	2017	宇都宮 正志	地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ	International Nannoplankton Association Meeting	ギリシャ	新生界微化石層序の年代分解能向上に向けた国際共同研究の事前協議及び研究動向調査	Vol.7 No.9 (2018年9月)
15	2017	小森 省吾	地圏資源環境研究部門 物理探査研究グループ	国際学会Near Surface Geoscience Conference & Exhibition 2017	スウェーデン	電磁探査における最新の研究動向調査及び国際共同研究のための打ち合わせ	Vol.7 No.9 (2018年9月)
16	2017	戸崎 裕貴	活断層・火山研究部門 水文地質研究グループ	Flinders大学	オーストラリア	沿岸域における超長期の塩水－淡水混合過程に関する国際共同研究打ち合わせ	Vol.7 No.9 (2018年9月)
17	2018	伊藤 剛	地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ	国際古生物学会, 巡検, 打合せ	フランス	古生界ベルム系微化石層序の高精度化に向けた国際共同研究の事前協議及び研究活動調査	Vol.8 No.7 (2019年7月)
18	2018	岡本 京祐	再生可能エネルギー研究センター 地熱チーム	ローレンスパークレー, スタンフォード大学	アメリカ	地熱貯留層の高精度微小地震モニタリング開発に向けた情報収集	Vol.8 No.7 (2019年7月)
19	2018	持丸 華子	地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループ	ハワイ大学	アメリカ	油ガス田に生育する新規微生物群の生態解明に関する国際共同研究に向けた事前協議	Vol.8 No.7 (2019年7月)
20	2019	松本 親樹	地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ	The 23rd International Conference on Environment and Mineral Processing (EaMP2019) & WS, 打合せ	チェコ	鉱山開発跡地における酸性鉱山廃水の対策に係る水文調査技術の動向調査および情報収集	Vol.9 No.6 (2020年6月)
21	2019	遠山 知亜紀	地質情報研究部門 資源テクニクス研究グループ	Goldschmidt Conference, 打合せ	スペイン, イギリス	地球内部のハロゲン元素と塩素同位体に関する分析技術・研究の動向調査	Vol.9 No.3 (2020年3月)
22	2019	南 裕介	活断層・火山研究部門 火山活動研究グループ	IUGG 27th General Assembly	カナダ	噴出物の組織解析に基づく水蒸気噴火研究の動向調査と国際共同研究に向けた情報収集	Vol.9 No.7 (2020年7月)
23	2022	朝比奈 健太	地圏資源環境研究部門 燃料資源地質研究グループ	アーヘン工科大学	ドイツ	機械的エネルギーを駆動力とする石炭の低分石化技術の開発	Vol.13 No.7 (2024年7月)
24	2023	岩橋くるみ	活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ	チューリッヒ工科大学	スイス	火山噴出物による噴煙駆動メカニズムの解明に向けた国際共同研究の事前協議	Vol.13 No.4 (2024年4月)
25	2023	佐藤 善輝	地質情報研究部門 平野地質研究グループ	XXI INQUA 2023 (国際第四紀学会)	イタリア	沿岸域におけるジオアーケオロジに関する動向調査と国際共同研究に向けた情報収集	Vol.13 No.4 (2024年4月)
26	2023	児玉 匡史	地圏資源環境研究部門 物理探査研究グループ	International Geomechanics Symposium (IGS) 2023	サウジアラビア	International Geomechanics Symposium (IGS) 2023での成果発表および情報収集	Vol.13 No.4 (2024年4月)
27	2023	志村 侑亮	地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ	オルレアン大学	フランス	国際共同研究の事前協議と研究活動調査: 沈み込み帯に拡大型海嶺が接近・沈み込むことで生じる大規模地殻変変	Vol.13 No.4 (2024年4月)
28	2024	中谷 貴之	活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ	5th SerpentineDaysへの参加	スペイン	沈み込み帯における水流体の移動・分離過程に関する研究: 国際研究会への参加と国際共同研究に向けた情報交換	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)
29	2024	細野 日向子	活断層・火山研究部門 地質変動研究グループ	国際学会EUROCK 2024への参加	スペイン	地下深部での断層帯の亀裂形成と力学・水理学的特性の解明に向けた国際共同研究事前協議	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)
30	2024	綱澤 有輝	地圏資源環境研究部門 鉱物資源研究グループ	国際学会 (APT2024; the 9th Asian Particle Technology Symposium) への参加	オーストラリア	国際学会 (The 9th Asian Particle Technology Symposium) での成果発表および研究動向の情報収集	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)
31	2024	宮崎 佑典	地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループ	南カリフォルニア大学, 事前協議と実験	アメリカ	海底下生命圏における重金属動態解明のための国際共同研究に向けた情報収集と事前協議	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)
32	2024	吉川 美穂	地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ	パウル・シェラー研究所 (PSI), 国際共同研究の事前打ち合わせ	スイス	地下水・土壌汚染の微生物による浄化メカニズム解明に向けた国際共同研究の事前協議	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)
33	2024	斎藤 健志	地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ	オールボー大学, Prof. Per Moldrup, 国際共同研究申請等に関わる事前打ち合わせ	デンマーク	熱環境擾乱が地圏環境に及ぼす影響評価に関する国際共同研究打ち合わせ	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)
34	2024	椎名 高裕	活断層・火山研究部門 地震テクニクス研究グループ	EGU General Assembly 2024	オーストリア	地殻構造の描像と地震発生過程の関係解明に向けた最先端研究の情報収集	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)
35	2024	武藤 俊	地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ	バドヴァ大学, 国際共同研究打ち合わせ	イタリア	石炭紀からジュラ紀の超海洋パンサラッサ遠洋域における生物源シリカ堆積プロセスの解明に向けた国際共同研究の事前協議及び研究活動調査	本号, Vol.14 No.7 (2025年7月)

NAKAO Shinsuke (2025) Overview of the Hirokawa Research Fund and its achievements.

(受付: 2025 年 5 月 1 日)